

2023年11月24日

## 北海道南西沖地震から30年、被災地支援は新しい段階へ。 - 奥尻島災害ボランティアOB/OG有志のメッセージ -

1993年7月12日に発生した北海道南西地震から今年で30年となります。くしくも本年は1998年のNPO法成立から四半世紀でもあり、日本社会にとり意義深い年になりました。

奥尻島災害ボランティア有志の私たちは10年前の2013年7月に「20年メッセージ」をとりまとめて発信をしました。その折に取材くださった報道機関の方々に、この場をお借りして、まず御礼を申し上げます。

今年7月12日に、奥尻島では震災30年の献花イベントが行われました。当時の災害ボランティアも島外から現地参加し、献花と黙祷を捧げました。

1993年の北海道南西沖地震最大の被災地となった奥尻島に全国から多くの災害ボランティアが集い、その熱量は1995年の阪神・淡路大震災の支援に引き継がれました。1995年は日本の「ボランティア元年」となり、1998年のNPO法の成立に至ります。

自身も奥尻島で北海道南西沖地震を経験した定池祐季さん（東北学院大学准教授・災害社会学）は、北海道南西沖地震の被災地で見られた災害ボランティア活動（「ボランティア前夜」）が後の「ボランティア元年」につながっていると指摘しています。

今回、当時の災害ボランティアの来島によって、30年ぶりに再会した被災者の方々は、過酷な30年前をとともに生き抜いたことを思い起こし、嬉し涙で号泣されていました。

当時の人口4,500人は現在2,400人となり、困りごとが新しいフェーズに入っているのが今です。私たちの人生の原点は奥尻であり、大変多くを学び、今はベテラン社会人となって日本各地で仕事をしていますが、「奥尻島への支援はこれからさらに重要」と痛感しました。

「長年被災地とご無沙汰したので、交流できない」という各地の被災地や災害ボランティアの方々に新たな選択肢を提案したく、来年7月12日に私たち有志で可能なメンバーは奥尻島に現地集合することで合意しました。今年9月から有志の月例会として奥尻島民と私たちがオンライン交流も始めました。

震災30年目以降も、日本各地から奥尻島を応援する新しい挑戦をご一緒に続けましょう。そして、各地の被災地にかつて関わり、その後長年ご無沙汰した災害ボランティアの方々が、現地に再度関われる大義名分になる事例に私たちがなれば、この上ありません。

奥尻島災害ボランティアOB/OG有志